



# サイジャーナル

月刊  
24・9・10  
第405号

日本サイ科学会 平成24年9月1日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会  
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

<b>東 北</b> <small>〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサノビル201号</small> <b>佐佐木 康 二</b> <small>☎ 022 (279) 0908-FAX 022 (274) 0097</small>	<b>中 部</b> <small>〒503-0981 大垣市松町1290</small> <b>山 田 哲 三</b> <small>☎ FAX 0584 (91) 1192</small>	<b>北 陸</b> <small>〒920-0864 金沢市高岡町12-45-1F ホリスティック健康科学研究所内</small> <b>佐 藤 禎 花</b> <small>☎ 076 (234) 6634</small>	<b>関 西</b> <small>〒659-0011 芦屋市六麓荘町 (事務局) 9-39</small> <b>木 村 のり子</b> <small>☎ FAX 0797 (22) 6425</small>	<b>九 州</b> <small>〒862-0976 熊本市九品寺 1-9-7</small> <b>金 子 輝 夫</b>
---	---	--	--	---

## 九月本部例会のお知らせ

未曾有の天災・人災を目的  
当たりにして、サイ科学は  
何ができるのか!?

講師 ホンマ シュウジ氏  
(株式会社ビジョンプラス  
エグゼクティブ・プロデューサー)

◎ゲスト講演  
井戸 理恵子氏  
(多摩美術大学講師・民俗情報工  
学研究)

昨年の東日本大震災の発生によ  
り、これまで想定していなかった  
規模の大地震、津波が実は、頻  
繁に日本列島を襲っていた歴史が  
あったことが明らかになりました。  
地震学者がこれまで黙殺してい  
た歴史的記述や口伝の重要性が再  
認識されることとなりました。被  
災の中心地・石巻市出身の筆者は、  
今回、奈良時代から貞観期、鎌倉  
時代初頭にかけて、石巻を中心と  
した歴史的出来事と大災害の因果  
関係に着目して調査を行ったこと  
ろ、数多くの神社仏閣が大震災と

の関連において創建されたとい  
う事実には遭遇しました。

神仏のルーツや地域信仰をつな  
ぎ合わせることにより、日本人と  
自然災害との関係を考察します。

※中国や日本における超能力者や  
超能力少年少女達の取材、検証番  
組を沢山制作してこられたホンマ  
氏が、今回の東日本大震災に際し  
て、出身の地震・津波被災地の地  
道な取材と調査をされた内容を、  
被災地の映像も含めていろいろな  
観点から問題意識をもって、お話  
をされます。

ゲストの井戸氏もそれらに対し  
て研究者・能力者の観点から、貴  
重なお話が聞ける希な機会ですの  
で、会員の皆様はご友人・知人を  
お誘いして是非ご参加ください。

●ホンマシュウジ氏のプロフィール  
宮城県石巻市生まれ。CMブラ  
ンナー、CMディレクター、番組  
ディレクター、番組プロデューサ  
ーを経て、現在マルチメディアプ  
ロデューサー。自然ドキュメンタ  
リー、歴史の謎・人間の不思議な  
潜在能力の謎をテーマにしてノン  
フィクションシリーズ作品など数

## 今月号の記事

- ◎ 九月本部例会のお知らせ
- ◎ 御寄付御礼
- ◎ 関西サイ科学会九月例会予告
- ◎ 関西サイ科学会十月例会予告
- ◎ 中部サイ科学会九月例会予告
- ◎ 事務局からのお知らせとお願い
- ★ 第22回全国大会のお知らせ
- ◎ 十一月本部例会予告
- ◎ 関西サイ科学会十一月例会予告
- ◎ 第16回宇宙生命研究分科会報告
- ◎ 四月本部例会報告
- ◎ 六月通常総会報告
- ◎ 第三六八回関西サイ科学会報告
- ◎ サトルエネルギー学会秋の大会
- ◎ オープは参加を求めている

## 平成24年度の会費未納者へのお願

平成24年度も半期が過ぎました  
が、年会費がまだ未納の会員の方  
がいらつしやいます。  
日本サイ科学会は会員の皆様の  
会費によって活動が支えられてお  
りますので、未納の方は是非お納  
め戴きますよう、よろしくお願  
い致します。既納か未納か分からな  
い方は、事務局にメールかFAX  
でお尋ね下さい。

多く手がける。現在、日中韓共同制作による「大型ドラマ」企画と「東アジア・情報バラエティー」の準備に奔走中。

主な作品：TBS「ギミアぶれいく」「プレゼンター」未知能力シリーズ、「アニメ・ムンディ」、「世界謎紀行・神々のいたずら」シリーズ、「自然ドキュメンタリー・神々の詩」シリーズ、TBS 50周年SP「地雷Z ERO 21世紀最初の祈り」、「Mrマリック・超魔術の逆襲シリーズ」、NHK・BS スペシャル「パチカン外交」ヨハネ・パウロ2世と冷戦後の世界」、日テレ「スーパーテレビ情報最前線」(サイババほか)、「木曜スペシヤル・Mrマリック・超魔術」、BS 11「第2ニッポン国・独立宣言」ほか  
著作：「未知能力ーあなたの知らない不思議世界」(青春出版)、「カメラがとらえた人間の不思議な力99の謎」(二見書房)、「ワールドミステリー・ツアー・アジア編・中国怪奇譚」(角川書店)  
日本サイ科学会理事・日本人科学会学術会員

日時 平成24年9月8日(土)  
午後1時半～5時

会場 北とぴあ7階701会議室  
交通 JR京浜東北線王子駅下車  
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員 二〇〇〇円  
一般 三〇〇〇円  
学生 一〇〇〇円

御寄付御礼  
(7/6受領分まで)

金五千六百元也 中島 敏樹 様

関西日本サイ科学会  
九月例会のお知らせ

真実さえ広まれば世界は今にでも理想郷にできる  
ー代替医療の現場からー  
ー科学からみた地球空洞説ー

日時 平成24年9月15日(土)  
講師 藤枝 縁氏

午後1時半～5時  
会場 大阪科学技術センター  
六〇五号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車  
北へ徒歩5分 靱公園内  
会費 会員 二千元 一般 三千元  
学生 一千元

関西日本サイ科学会  
十月例会のお知らせ

神様はいるぞ!

日時 平成24年10月20日(土)  
午後1時半～5時  
会場 大阪科学技術センター  
六〇五号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車  
北へ徒歩5分 靱公園内  
会費 会員 二千元 一般 三千元  
学生 一千元

問合せ 0797・22・6425  
関西日本サイ科学会事務局まで

中部日本サイ科学会  
九月研究集会のお知らせ

会員二名の研究・体験発表

日時 平成24年9月15日(土)  
午後1時半～5時  
会場 つるまい会館2F  
名古屋千種区吹上1・1・3  
052・744・3884

交通 JR中央線鶴舞駅、または地下鉄鶴舞駅下車、名大病院北イオン千種店前  
会費 無料  
※会員以外の方の参加も大歓迎

◎事務局からのお知らせと  
お願い

☆本部例会や大会等での運営ボランティア募集中  
受付での資料配付、講演者スライド発表時の電灯操作、コンピュータ操作などのお手伝いをしたいだけませんか。当日の参加費が無料になります。

●左記にご連絡願います。  
office21@psi.mail-box.ne.jp

## ★日本サイ科学会 第22回全国大会プログラム★

(日時) 2012年10月14日(日) 10:00~16:50

(会場) 北とぴあ7階第1研修室

(交通) J R 京浜東北線王子駅下車徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

(会費) 会員 ¥2,000 一般 ¥3,000 学生 ¥1,000

### プログラム(敬称略)

- 9:30 開場
- 10:00~10:10 開会のご挨拶 小林 信正 大会委員長
- ◎会員の研究発表(6名)(20分発表5分質疑応答/1人)
- 10:10~10:35 瀬尾 泰範 「工学的見地からみたPK, ESP, 悟りの構造」
- 10:35~11:00 阿久津 淳 「ラップ音:異次元との遭遇」
- 11:00~11:25 ロン 薄葉 「オーブ現象と意識の変容」
- 11:25~11:50 小林 信正 「オーブはコンタクトを求めている」
- 11:50~13:00 昼休み
- 13:00~13:25 橋本 和哉 「気当て診断法(リーディング法)を生活に活かす」
- 13:25~13:50 佐々木 茂美 「意識とオーブ(ORB)のコンタクト」
- 13:50~14:00 休憩
- 14:00~16:40 シンポジウム テーマ「コンタクト」  
大会シンポジウム委員長  
小林 信正(JMC[ジャパンメディアクリエイティブ]代表、日本サイ科学会理事)
- パネリスト  
稲垣 勝己(催眠療法士 メンタルヘルス研究室)  
佐々木 茂美(電気通信大学名誉教授、工学博士、日本サイ科学会会長)  
竹本 良(UFO・科学問題研究家、日本サイ科学会理事)  
橋本 和哉(医師、医学博士、日本総合ヨガ普及協会顧問)  
苗 鉄軍(カオス研究員、工学博士、日本サイ科学会理事)
- 14:00~15:00 特別講演 稲垣 勝己「過去世誘導 催眠状態中に可能な霊的存在(低級霊、高級霊を含めて)とのコンタクト」
- 15:00~15:10 休憩
- 15:10~16:00 パネラー5名の発表(1人10分)
- 16:00~16:40 パネル・ディスカッション パネラー+会場参加者
- 16:40~16:45 優秀研究賞 表彰式 佐々木 茂美 会長
- 16:45~16:50 閉会のご挨拶 小林信正 大会委員長
- 17:30~19:30 懇親会(希望者:当日受け)

日本サイ科学会 第22回全国大会  
シンポジウム テーマ『コンタクト』開催にあたって  
大会委員長 小林 信正

人類は太古の昔から未知なる世界へさまざまなコンタクトを求め、その夢を開いてきました。自然を支配しようと飽くなき挑戦をして、そこから宗教や哲学が生まれ、万物の根源の探求から「アトム（原子）」に到達し、科学が発達し、「文明」が発展し、今日に至っています。

そのエネルギーの原動力になるのは、未知なる世界を知りたいという知の欲求であり、好奇心だろうと思います。

最近の話題では、日本の小惑星探査機「はやぶさ」は「小惑星イトカワ」とコンタクトして微粒子が入ったカプセルを持ち帰り、夢や希望を与えてくれました。またNASAの探査機「キュリオシティ」は火星に着陸に成功し、オバマ大統領は「もし、火星人とコンタクトできたら、すぐに知らせ」と冗談を飛ばし、私たちに大いなる想像力と期待をかき立ててくれました。

さらに“神の粒子”と呼ばれ、物の重さを与え、質量の起源といわれる「ヒッグス粒子」とみられる新粒子にコンタクトし、この大発見は宇宙の謎を解く鍵とされています。私たちの目に見える星などの物質は宇宙の4%しかなく、その他ほとんどは目に見えない未知の領域だといわれています。これらの世紀の大発見、大発明と迄はいかないまでも、人知を超えた未知の領域の研究はまだまだ多くあることでしょう。

今回の大会のテーマは、夢や想像力をかき立てる未知との『コンタクト』がテーマです。

たとえば、地球外知的生命体、UFOなどの地球外世界との『コンタクト』から、目に見えない高次のサムシンググレート、霊界、霊魂、前世、オーブ、チャネリング、奇現象など内なる精神世界との『コンタクト』まで、マイクロコスモスからマクロコスモスまで未知のあらゆるサイ現象について、興味津々たる研究発表を大いに期待しています。

◎特別講演者：稲垣勝巳先生のご紹介

テーマは「過去世誘導 催眠状態中に可能な霊的存在（低級霊、高級霊を含めて）とのコンタクト」です。

●プロフィール：前職は公立中学校教頭であり、学校心理士・日本教育催眠学会理事・同学会研修委員長・同学会認定上級教育催眠指導士を務める心理学系催眠療法実践者です。現在、「稲垣勝巳メンタルヘルス研究室」を主宰し、SAM前世療法を中心とした臨床催眠活動に専念する傍ら、潜在意識下で語られる前世の記憶の検証を通して、生まれ変わり（死後存続）について超心理学の実証的立場から検討と探究を続けています。

著書は『前世療法の探究』春秋社、2006、『生まれ変わりが科学的に証明された！』ナチュラルスピリット社、2010。フジTV「奇跡体験アンビリバボー」により2回、私の前世療法によって遭遇した生まれ変わりの濃厚な証拠事例が二つが紹介されました。

十一月本部例会予告

気(生命エネルギー)の  
実在と能力

講師 藤森博明氏

自動車や電車が動くには、ガソリンや電気というエネルギーが必要になります。では、人間や動物が動くには、どのようなエネルギーが必要になるのでしょうか。

これまで人類は、水力の水車、風力の風車、そして石炭の蒸気機関、電気のもーター、ガソリンのエンジンなど沢山のエネルギーを活用する手段を開発してきました。しかし、それらは生命体を動かすエネルギーではありません。いわば無生物を動かすエネルギーの利用法でした。

生物と無生物の最大の違いは、自分の意思で動き出すか否かにあります。さらに、生物は自発的に成長し、子孫を残し、自己修復する機能を備えています。これらの活動を支えるエネルギーは必ず存在します。しかもそれはシンプルなもの。そのエネルギーが、古来

より「気」と呼ばれています。

気は、複雑で発展的な生命体を動かすエネルギー。呼吸や食物から得られます。しかし、動かす対象物が複雑なゆえに説明は遅れています。今、分かるのは気エネルギーの実在と能力の一端。私は、幸いにも修練中に気の間を捉えることができました。今回は、気の感知方法の解説と気の凄まじいパワーの一部をご覧頂ければと思います。

※長年気の修行をして、パワーを発する能力者の実演や道場でのビデオも見られますので、会員の皆様もご友人、知人をお誘いして、是非ご参加ください。

●藤森博明氏のプロフィール

「合気」という秘技をとらえるために身体の緩め方を工夫していた。そんなある日、腸腰筋の感覚をつかむ。それをもとに、「スカイウォーキング」という歩き方を開発。そのお陰で腰椎や丹田が緩み、念願の「気」をとらえる。以来、気の巡る身体となり、大病などは全くの無縁になる。

練馬区平和台にある「健康道場

ウエルネス気の家」にて気を利用した健康法、衰えない身体創り、スポーツ指導を行う(昭和26年生まれ。品川区出身。都立八潮高↓電気通信大学物理工学科卒)。  
著書は「気が分る本」、「気に成る本」(コスモス・ライブラリー)他。

日時 平成24年11月10日(土)

午後1時半〜5時

会場 北とぴあ7階701会議室  
交通 JR京浜東北線王子駅下車  
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員 二〇〇〇円  
一般 三〇〇〇円  
学生 一〇〇〇円

関西日本サイ科学会  
十一月例会のお知らせ

農畜水産物の革新への道

講師 白根 正志氏

日時 平成24年11月17日(土)

午後1時半〜5時  
会場 大阪科学技術センター  
六〇五号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車  
北へ徒歩5分 靱公園内  
会費 会員二千元 一般三千元  
学生一千元  
問合せ 0797・22・6425  
関西日本サイ科学会事務局まで

第16回宇宙生命研究分科会  
報告

第16回宇宙生命研究分科会(第6回UFO・オーブシンポジウム)は2012年7月29日(日)10時〜18時、品川健康センターにて開催。今回は秋のシンポジウムのテーマ「コンタクト・異次元との遭遇」に準じ、「コンタクト準備!」というテーマで行いました。

参加者は50名を超え、満員御礼!参加者の投票によって、UFO・オーブ賞は前回と同じクリーンエネルギー研究所の井出治氏に決定! またマージナル賞は「JFKとUFO」の小川謙治氏が受賞!

懇親会は宮内輝幸氏を幹事にして、近くの無国籍料理店「シマ」に30名ほどが集まり、暑気払いを兼ねて、参加者と講師との情報交換を愉しみました。ご協力を頂いた皆さん全てに御礼申し上げます。ありがとうございました！

(世話人 阿久津 淳)

### ◎講演者 タイトル

阿久津淳(世話人)「未知! いや? 無知との遭遇?」

トニー・中村(TVカメラマン)

「ドゴン族とウチュウジン」

川崎利男(川崎オーブ研究所)「自

動連写で(毎夜120枚)オーブ

の秘密に迫る」

宮本一聖(リサーチャー)「超常現象

調査日記:極秘・番外編」

宮内輝幸(医師)「アパリシヨンの

医学的考察」

小川謙治(TVプロデューサー)

「JFKとUFO」

井出治(クリーンエネルギー研究

所)「クロップサークル」

ロン・薄葉(スピリチュアル・ヒ

ラー)「オーブと異次元」

岩崎士郎(空間エネルギー研究者)

「記号と反重力」

森脇十九男(UFO研究者)「反核

### 開星統合宣言

高野モナミ(霊能者)「霊とUFOの層状構造」

小澤佳彦(日常現象研究者)

「原発事故とおぼけ」 ほか

### 四月本部例会報告

### オーブ研究その後

講師

川崎利男氏  
ロン薄葉氏

(編集部より)

今回はオーブ写真を多数紹介しながらの講演なのですが、オーブ写真は暗い背景に薄明るい光の玉や帯なので、この紙面で掲載するのは解像度的に無理ですので、お話の中のポイントをご報告する形になります(ご了承願います)。

### 「オーブ観察7年間 その傾向と残された課題」

講師 川崎利男氏

(川崎オーブ研究所)

オーブ研究のきっかけは、知り合いに誘われて埼玉県の和光市にある自衛隊のお祭りに行ったときに、最初にオーブが撮れて、びっくりしました。これが霊魂ということになると、神様の領域に踏み込むことになるので、ちょっと恐いなというところで、半年くらい躊躇しておりました。その後オーブの写真を沢山撮ることになります。

これまでのオーブ研究の歩みは、秋のお彼岸で白昼(曇天)のお

墓参りの帰り、偶然撮影した中空に出たオーブに肝をつぶしましたが、これは先祖の命令だと思っ

て、決心してオーブをあちこちで撮ることにしました。

・2006年10月に撮影開始。近所の墓地、靖国神社、交通事故跡でやたら撮影。墓地ではあま

りオーブは撮れず、靖国神社は昼間は撮れますが、夜は撮れま

せん。交通事故跡は賑やかな場所

でオーブは撮れるのですが、寂しい場所では撮れません。

結局、オーブは人々が大勢集まる賑やかな場所がよく撮れるこ

とが判りました。やがて、家の玄関先の十字路で

定点撮影を行うことに気がつき、撮り始めました。最初はあまり撮れなかったのですが、次第にオーブが撮れるようになり、最近

は確実に20枚に1枚は撮れます。

・自治会納涼祭「盆踊り」で多数のオーブを撮影。上空から舞台、

平場と上下左右にオーブが充ち満ちました。

・翌年の「盆踊り」でも再現性がありました。多数のオーブが出現したのです。

・そして更に3年目の撮影では、隣の自治会盆踊りで、「恨みのこもった顔」がオーブの中

に出現しました。

・自分の家のお墓参りに行ったときに、通路の空間をストロボで

撮った1枚にオーブが写りました。白昼にオーブが光って見えるのは、オーブが発光している

のではないかと私は推測します。

・2008年の盆踊りでは夕方の時間帯でも多数のオーブが撮れ、

その後暗くなって踊りが佳境に入るほど、オーブの数が増えま

した。その数は200でもきかないくらいです。

ここで皆さんに紹介したいのは「オーブ謎の超知性体」ミホール・レドウィズ、クラウス・ハイネマン著（五次元文庫）という本です。これはオーブ研究には欠かせない貴重な文献です。

面白いのは神学博士、法学博士であるミホールさんの方が、オーブに関して沢山実験しながら研究しており、実験物理学者のハイネマンさんはヒーラーである奥さんが写真を撮っていて、本人は始めからオーブは精神的な存在として研究しています。

オーブの研究はどういうふうに行うかについて、いろいろ考えてみました。

- ・ 1個のオーブに着目して追跡し、性状等研究する。
- ・ 再現性の少ない物（異常現象）は採り上げない。
- ・ 兎に角、標本・サンプルであるオーブの映像を多数採集する。
- ・ そして、全体の傾向と行動を把握する。これらから内容を推定する。
- ・ 様々な実験条件を設定し、人工的に発生させる。又は呼び込む。
- ・ オーブ現象の研究は「再現性」

にかかっている。

例えば東京駅の八重洲口を出て、50mくらい行った建築中の場所や、隅田川と神田川のおつかる柳橋辺り、有楽町のガード下辺りでも、オーブがよく撮れる。  
・ 第三者が追試を出来なければ、「二過現象」になる。



従来の常識から外れた実験結果

例えば江崎玲於奈博士の「トンネルダイオード」の発明など、本来の研究目的からは外れている、異常現象が起こったときに、それに着目することが大きなテーマになったり、突破口になったりすることがあります。オーブも異常現象ですが、再現性がなかったりすると、研究困難なことが多いのです。この焼き肉パーティーの写真で

も、最初はオーブを意識していなかったのですが、写真を数枚撮っている内に近づいてくるオーブが写り始め、次の瞬間鉄板の上にオーブが何千個と集まり、さらに7秒後に撮ったときはオーブはほぼ消えているのです。これは再現性が難しいので、オーブと断言はできません。

今はガラス板を使ったオーブの実験しております。まだ最終的な結論は出ておりません。

## 「オーブ現象とこれまでの歩み」

講師 ロン薄葉氏  
(日本サイ科学会評議員)

オーブの色(光・周波数)の考察をしますと、

・ オーブ自体は、元々が光・周波数によって形成された肉眼では見ることのできない「一種のプラズマ構造体、フォトン形成体」なのではないか？

・ オーブがデジタルカメラに白く写ったり、また色がついているように写し込まれる理由は、オ

ーブの背景にある、様々な光源による反射光の加減によるものである。

・ デジタルカメラのフラッシュ光の光に反応して、オーブ自体が自らの意思表示により発信する未知の周波数ノイズ(オーブ・ノイズ)によって、様々な色、光で発光してくる事実を、これまでの観察から画像分析でも確認することができた。

オーブの未知的現象としての「オーブ・ノイズ現象」について、

・ 先の研究報告では、オーブ現象の発生時において起こる「ラップ音」と「撮影機の画面の揺れブレ画像」(2003年2月、小林信正氏)等の報告がありました。ここで述べます「オーブ・ノイズ」とはオーブ現象の発生時に因果して起こる、オーブ自体が独自に発生します周波数ノイズ(ホワイト・ノイズ)を意味したもので、このオーブ研究において、私が新たに提唱しました造語です。

・ そして新たな見解としまして、「オーブ・ノイズ」の解釈は、オーブ自体が実験者の行為に対し

て、独自に反応し意識的に発信させてきます意識・意志の表明を示すと思われる電磁氣的周波数ノイズで、確固としたオーブ自体の意思表示を表した、未知の意識エネルギーによる発信周波数ノイズです。

私は「オーブは集合意識体だ」という見方をしています。

オーブの一番肝腎なところが、オーブを構成しているのは粒子なんですね。アメリカのクラウス・ハイネマン博士が「プラズモン」と名前をつけたのですが、一種のプラズマみたいな粒子で、細かくてほしい3〜5ミリの大きさです。私はその最小単一の意識体を「分身ブローブ体」と名付けております。「分身ブローブ体」の写真を画像処理すると、周りにきれいな光が出ています。大きさの測定方法は、オーブに「大きさをみるので、脇に来てくれない！」と頼んで、写真を撮り測定します。

こちらの少し大きめの塊は、「分身ブローブ・クラスタ塊」と呼び、単一の「分身ブローブ体」がグループとして集合したものです。「分身ブローブ・クラスタ塊」は

2〜14センチくらいの大きさで、オーブは組織形態をもっていて、統一集合形成体としての大きなオーブ(母体)は、「分身ブローブ・クラスタ塊」が複数連結した形成体である「クラスタ塊」がさらに集合した「オーブ集合意識体」となります。



オーブの概念なんですけど、オーブはオーブ(母体)一つを個として考えた場合、その個をネットワーク化したものが全体であり、その意味合いからの考察では、他のオーブ(母体)群を全体と見なすことができるようです。つまり、オーブ(母体)は、単独で存在するものではなく、ある一定の規模の集団(群れ)を築いて存在していることが示唆されます。

その意味合いから、オーブ(母

体)群はグループ化した集合意識体の統一化した組織形成体としての群れと定義できるようです。

特に注目すべき現象は、その場のあらゆる光源や光線および反射スペクトル光に対して、非常に敏感な対応を示し、また、それを自由自在に操る驚愕すべき妙技です。この現象は、また我々人間に対して何かを伝えようとしているオーブ自体からのメッセージとも受け取れるのではないのでしょうか。

私の考えるオーブ(ORB)は、  
①時空超越した内容を保有し駆使する能力によって、多次元界(次元的意思階層世界)を行き来する超波動情報エネルギー体、若しくは知的生命体としての存在。  
②現世の物理的法則によらず、さらに未知的な情報エネルギー体としての超テクノロジーを包含している地球外知的生命体としての可能性を示唆する存在。

③目に見えない未確認の飛行(浮遊)物体、例えば、新たな見解に基づく生命体的UFO論にもなり得る可能性もある。

④いわゆる、宇宙的な霊魂的意識体としての可能性も高い。

### 小林信正氏のお話

私は写真のほうの大学を出まして、当時はデジカメがなくて、フィルム写真でしたが、昔の写真を見てもあまりオーブが写っていませんでした。今から30年位前に、ある霊能者から「丸いものがないくつか写っているけど、これが霊体だ」と言われたことがあります。私は「これは科学的に言えば、ゴミか何かだな。」と答えたのですが、それが後に「オーブだったんだ。」というふうになり気付いたわけです。

私が最初に撮影実験した1996年に光の玉が写ったのですが、2007年に「オーブ(ORB)」という言葉初めて知ったわけです。日本では以前から「偽物では無いか、技術的なものではないか」という意見があったので、オーブの研究をしているクラウス・ハイネマン博士と文通をして仲良くなり、日本での講演をお願い致しました。しかし、3・11の東日本大震災で中止になりました。ハイネマン博士は物理学者でありながら、奥さんがヒーラーであったり、ブラジルにいる世界でトップクラスの能力者に大変傾倒して、現地

に家を購入して、行ったり来たりしています。ハイネマン博士には、私のオーブ写真を送って、見解を伺ったりしてしておりますが、だいたい同じような意見です。



オーブは安いデジタルカメラほどよく撮れるようですが、普通のフィルムカメラでもフラッシュをたけば、写ることがあります。

オーブはフラックス・ゲート型磁気検出器で測定して、電磁波を持っていくことが判りました。またオーブは、近赤外線領域で写ることが判りました。

オーブがフラッシュをたいととくに写ることについて考察してみましたところ、エネルギーが低い状態の「基底状態」から、フラッ

シユの光を受けてエネルギーが高い「励起状態」となり、光エネルギーを放出するようです。分子に吸収された光の補色が色彩となって現れるのです。

オーブの色は神社や聖地では白っぽい色や黄金色のもの（高次元の霊か？）が写り、楽しい場所や聖堂などでは青色系のもの（聖霊や先祖霊か？）が写り、穢れや不浄な土地では、赤色や黒っぽいもの（邪霊や未浄化霊か？）が写ります。

実は以前「鏡視実験」というのをしばらくしておりました。これは亡くなった肉親にどうしても会いたいという人が、鏡に向かってリクライニングの椅子に座ってずっと鏡をみていると肉親が現れるというものです。その実験のビデオにオーブがゆつくりスーッと現れて、スーッと消えていく瞬間が写っております。体験者の三人に一人くらい感動しますが、そのとき写真を撮るとほぼオーブが撮れますが、そうでない人は撮れないので、やはりオーブは霊的存在だと推測されます。

## 六月通常総会報告

### ◎平成23年度本部事業報告

1. 会員の現状（平成24年5月末日現在）

賛助会員	1名
維持会員	5名
正会員	186名
学生会員	24名
準会員	53名
合計	269名

### 2. 講演会、研究集会

本部は10月の「創立35周年記念大会」を含み、計12回の集会を開催した。

### ◎本部例会・大会（敬称略）

期日	講演者	講演タイトル
平成23年		
5月14日（土）	赤松 瞳氏	「最新脳科学と透視能力」
6月12日（日）	井出 治氏	「未知エネルギーの研究とチャネリング」
7月18日（月）	古村 豊治氏	「なぜあなたに大きな奇蹟が起こらないのか？」
9月10日（土）	鈴木 俊輔氏	「3・

11 新文明の幕開け」～日本人の使命」

10月9日（日）創立35周年記念大会 シンポジウムテーマ「パワースポット」

11月12日（土）小林 信正氏「心靈現象について」

12月10日（土）忘年会も兼ねた会員の体験意見発表と討論の会  
平成24年

1月14日（土）ミッツィ 植田氏「縄文スピリットでサバイバル」  
2月11日（土）小林 正典氏「サイ科学に関係した電気・磁気の研究の紹介」

### ◎分科会

●宇宙生命研究分科会（阿久津淳）  
2011年

7月31日（土）第13回「第5回 UFO & ORB シンポジウム」

12月21日（水）第14回「第5回アセシオン・シンポジウム」

2012年  
3月31日（土）第15回「第4回ヒポクラテス・シンポジウム」

●パワースポット分科会（苗鉄軍）  
2012年

1月29日（日）、30日（月）駒ヶ根市、

大御食神社、入野谷（瞑想室）、測定

4月16日（月）、17日（火）駒ヶ根市、大御食神社、伊那・長谷（分杭峠）、測定

### 3. 総会

平成23年6月12日  
北とびあ902会議室で開催

### 4. 全国理事会・評議員会

平成23年6月12日  
北とびあ902会議室で開催

5. 本部理事会（第162回～第168回）を5月、7月、9月、11月、12月、1月、2月と7回開催した。

### 6. 出版物

・「サイ科学」第33巻第1号を発行した。  
・「サイの広場」は休刊（「サイ科学」と合本）した。  
・「サイジャーナル」第397号から第402号までを発行した。

### ◎平成24年度本部事業計画

（1）心を科学する為の博物資料室（開設、6月30日、予定：展示

と生体計測）

（2）駒ヶ根気エネルギー研究室開設に協力する。

（3）10月に全国大会（シンポジウムテーマ「コンタクト」）を開催する。

（4）月例会を9回（4、5、6、7、9、11、12、1、2月）開催する。

（5）分科会を数回開催する。

（6）本部理事会、全国理事会評議員会を開催する。

（7）サイジャーナルを6回発行する。

（8）「サイ科学（+サイの広場）」を発行する。

（9）公式サイトを運営する。

（10）「心を科学する博物館」の資料を整備する。

（11）その他

○活動方針として  
（1）刊行物に種々の分野の解説・応用や新鮮な情報を増やす。

（2）会の活性化を図るため、例会等でアンケートを実施、活用する。

（3）インターネットの公式サイトやメーリングリストを活用する。

（4）雑誌等の告知欄やメールマガジンに行事の予告を載せていく。

（5）地方日本サイ学会との連携を深める。

（6）地方からも講師を招く。

（7）理事や若手の幹事（理事候補、評議員を増やす）

（8）その他

### ●地方日本サイ学会

東北日本サイ学会

会長 佐佐木康二

◎平成23年度事業報告（敬称略）

平成23年

5月29日 総会

平成22年度事業報告、平成23年度事業計画

（東日本大震災のため順延）

8月13日 第178回研究会

「波動関数を収縮させない生き方」 佐佐木康二

10月8日 第179回研究会

「顔画像から前世を診断する」 佐佐木康二

10月9日 講演会（仙台市シルバーセンター）

「波数のお話」 佐佐木康二

12月11日 第180回研究会

「超能力遺伝子発見か!?」 佐佐木康二

平成24年  
2月11日 第181回研究会

「サイの正否は（従来）確率論で判定できない」 佐佐木康二

### ◎平成24年度事業計画

東北日本サイ学会は、創始者岡田幸千生が掲げた目的、「聖人及び超能力者の先人たちが出来るだけ深く探求して、誰でも本来の持っているはずの超能力を万人に成長させて人類の活動能力を本質的に高めること」を今後も目指し、次の事業を行う。

#### 1. 定例研究会の開催

定例研究会を偶数月第2土曜日に開催する。先人や研究者の成果を学び、また各人の知恵と知識を持ち寄る。サイ科学関係の著名人の講演会等は計画としては準備せず、機会がある折りに考慮する。

#### 2. 「東北日本サイ学会研究抄録」の編集

3. 長期研究テーマの推進

サイ現象の観測量化―「念写計」等の開発、気・意識の種類の見分け方、「念写」写真・「オーブ」画像等の分析・検証（福来心理

学研究所との共同研究)、意識純化・宇宙意識への目覚め、地震予知、数秘術・秘数の科学性の研究、フリー・エネルギー装置の研究、過去世・霊性・霊能の研究

#### 4. 講演会等の開催

「波数」「念写実験会」等のテーマで5月、8月に講演会を開催する(福来心理学研究所、仙台瞑想研究会と共催)。

#### 5. 会推進スタッフの充実、本部会員・会員の勧誘

6. 「岡田文庫」(福来心理学研究所との共同事業)及びビデオ資料等の閲覧サービス・管理

#### 中部日本サイ科学会

会長 山田哲三

#### ◎平成23年度事業報告

研究集会Ⅰ

日程 平成23年5月14日(土)

会場 つるまい会館

会員3名の研究・体験発表

研究集会Ⅱ

日程 平成23年9月10日(土)

会場 つるまい会館

会員3名の研究・体験発表

#### ◎平成24年度事業計画

内容 会員数名の研究・体験発表を中心に出席者で勉強会を行う。日程

第1回 平成24年5月19日

会場 つるまい会館

第2回 平成24年9月予定

会場 つるまい会館

第3回 平成25年3月予定

会場 つるまい会館

#### 北陸日本サイ科学会

会長 佐藤禎花

#### ◎平成23年度事業報告(敬称略)

平成23年6月26日(日)

第1部 基調講演「2012年間

題とサイ」阿久津淳

第2部 UFOトークバトル

ナビゲーション

「UFOの最新情報」竹本良

ガチンコトークバトル

「UFO問題と人類の未来」

飛島竜一×竹本良

講師：阿久津 淳先生(日本サイ

科学会理事・科学問題研究者)

竹本良(科学問題研究者)

飛島竜一先生(フリーランス・

科学ジャーナリスト)

#### ◎平成24年度事業計画

平成24年5月27日(日)

第1部「ローマ法王に米を食べさせた男」高野 誠鮮(羽咋市役所

員・住職)

第2部「宇宙政治∞(ムゲン)道

場」竹本良(科学問題研究者)

第3部 トークバトル第二弾

飛島 竜一(フリーランス・科学

ジャーナリスト)×竹本良

※平成24年度の計画に關しまして

は9月、12月の予定(内容、詳細

は未定)。

#### 関西日本サイ科学会

会長 河野明夫

#### ◎平成23年度事業報告(敬称略)

平成23年度は8月、12月を除き、

23年4月(第357回)から24年

3月(第366回)の10回開催し

た。参加者は会員146名非会員

229名合計375名で、伸びて

いる。

#### 平成23年(敬称略)

4月9日(土)芳野 武人「誰でも

できる一日でできる気の活用」

5月21日(土)瀬尾 泰範「東日本

大震災と今後の世界について占

星学的解釈と予測」

6月18日(土)サアラ「科学と靈

性の融合する時代」

7月16日(土)高尾 征治「オリジ

ナルデザイン」の正32面体図象に

潜む驚異の浄化パワー」日本各地

を巡る『みろく』奉納紀行に学

ぶー」

9月17日(土)井出 治「未知エネ

ルギーの研究とチャネリング」

10月15日(土)阿久津 淳「201

2年問題とサイ科学的進化」

『Scientific Evolution & 2012』

11月12日(土)塩小路 光幸「菅原

道真公の知られざる秘話、篆書

(てんしよ)の持つパワー、たつ

(龍・竜・辰)の字の不思議」

平成24年

1月21日(土)檀上 洪司「スピリ

チュアルの世界を探る」潜在意

識から宇宙意識へ

2月18日(土)徳永 康夫「宇宙か

ら見た般若心経」

3月17日(土)桜井 喜美夫「出口

王仁三郎の遺言」

#### ◎平成24年度事業計画(敬称略)

平成24年度は8月と12月を除き、

24年4月(367回)から25年3

月(376回)の10回開催する予

定である。

平成24年

4月21日(土)久保田昌治「水のはなし 活性水・機能水とは」

5月19日(土)上森三郎「地上絵の発見から邪馬台国の謎を解明」

6月16日(土)いよのいし「ニュートリノ光速超えの謎を解く鍵は正四面体(プラトン立体)

[SiOH]の生まれるメカニズムにあった」

7月21日(土)重川風天「誰でもが幸せになるプラチナの風が吹く」

九州日本サイ科学会

会長 金子輝夫

●平成23年度事業報告

九州部会としての事業は行いませんでした。

◎平成24年度事業計画

世話役を得て、できましたら講演会をと思っております。

●平成24年度日本サイ科学会役員構成(\*印は新任または改選)

会長 佐々木茂美

理事長 浪平博人

顧問 窪田啓次郎\*

品川次郎\*、西條一止\*

地方会長兼理事

東北日本サイ科学会会

佐佐木康二\*

中部日本サイ科学会会長

山田哲三

北陸日本サイ科学会会長

佐藤禎花\*

関西サイ科学会会長、副理事長

河野明夫\*

九州日本サイ科学会会長

金子輝夫

理事(常任理事を含む)

阿久津淳\*、大木高伸\*、

大谷宗司、久保田昌治\*、

小林泰樹、小林信正\*、

小林正典\*、小牧昭一郎\*、

佐々木律子\*、志賀一雅、

志村則夫\*、徳永康夫、

中島敏樹、鯉江勇、

本間修二\*、前田知則\*、

苗鉄軍、渡辺宙明

幹事 飯見勇\*、吉田一美\*

評議員

薄葉達夫、占部浩一\*、

加納愛信\*、鴨川裕司、

小久保孝行、佐藤ひろ子、

杉立繁\*、高橋至誠、

谷口五月、飛田洋子\*、

前田稔、三浦良江、

屋敷益男\*

監事 和田守央

(1) 本部役員・理事会は会長、理事長、顧問、常任理事、幹事に

よって構成される。

(2) 常任理事は月1回開催される本部理事会に出席できる理事を示す。

(3) 常任理事の選出は、理事の自己申告による。

〔平成23年度決算報告〕

収入			
項目	予算	項目	決算
会費	2,000,000	会費(正)	1,552,000
例会	400,000	会費(学生)	156,000
寄付	400,000	会費(準)	240,000
本・他	200,000	会費(維持)	220,000
繰越金	2,324,682	会費(賛助)	50,000
合計	5,324,682	入会費	32,000
		例会収入	444,000
		本会寄付	512,700
		本・他	186,741
		広告料	0
		前年度繰越金	2,324,682
		合計	5,718,123

〔平成24年度予算〕

収入		支出	
項目	金額	項目	金額
会費	2,000,000	ジャーナル発行	600,000
例会	400,000	会誌発行	300,000
寄付	400,000	人件費	1,530,000
本・他	200,000	例会会場費	120,000
繰越金	2,262,441	講師謝礼	200,000
合計	5,262,441	事務用品	150,000
		郵送・配送料	50,000
		通信費	80,000
		会議・打合せ	80,000
		交通費	50,000
		事務所維持費	110,000
		郵便・銀行振込料	20,000
		予備	100,000
		来期繰越金	1,872,441
		合計	5,262,441

支出		
項目	予算	決算
ジャーナル発行	600,000	610,111
会誌発行	350,000	306,600
人件費	1,530,000	1,534,000
例会会場費	120,000	119,920
講師謝礼	200,000	217,000
事務用品	150,000	211,558
郵送・配送料	70,000	48,050
通信費	80,000	84,972
会議・打合せ	80,000	81,300
交通費	50,000	39,890
事務所維持費	110,000	119,536
郵便・銀行振込料	20,000	21,610
予備(予稿集印刷代)	100,000	61,135
来期繰越金	1,864,682	2,262,441
合計	5,324,682	5,718,123

## ◎基幹論文賞・功労賞表彰

## ●基幹論文賞

千葉県 井出 治 殿  
昭和24年1月13日生

本会は定款細則第18条により総会の議を経て

貴下の研究活動に対し基幹研究賞を贈り

感謝の意を表します

平成24年6月10日

日本サイ科学会  
会長 佐々木 茂美

研究活動：「未知の第3起電力の基礎研究」

フアラデーの起電力とは独立した未知の第3起電力(Positive EMF)の発見と基礎研究

## 学会賞

1. 目的：本会の理念にふさわしい学術研究、実践活動に対して授与する。

2. 対象：論文、著書並びに実践活動に対して。

3. 選考方法：

3・1 自薦または他薦とする。

3・2 顧問、会長、理事、専

門家で審査の上、理事会で受賞予定者を決める。

4. 表彰：年次大会時の総会で受賞者を決定する。

## ●功労賞

吉田 一美 殿

あなたは日本サイ科学会会員(幹事、公式サイト管理者)として

永年にわたり研究と啓蒙活動にご尽力されました

本学会の輝かしい発展はあなたのご努力におう所が大であります

よって日本サイ科学会功労賞を贈り表彰し感謝致します

平成24年6月10日

日本サイ科学会  
会長 佐々木 茂美

第三百六十八回関西日本サイ科学会研究集会報告

### 地上絵発見から、邪馬台国の謎を解明！

講師 上森 三郎氏

とき 平成24年5月19日(土)  
ところ 大阪科学技術センター

●上森氏は1954年1月11日生まれ。もともと建築現場の人間で、建築歴30年。一級建築士。発明家。ネオガイアジャパン株式会社代表取締役社長。

この世の不思議を阪神・淡路大震災から実体験し、震災後に独立し建築業を始める。震災後の復旧工事(学校や住宅など公共工事)の経験から、

★将来建築現場で黒板が要らないデジタルカメラの必要性を見通し「デジタルカメラ『黒板くん』」開発、特許取得

シックハウスの研究から、  
★目が疲れにくく、a波(脳波)へ誘う『イオンバイザー』開発、特許取得

きれいな空気と水の必要性を痛感し、行き着いたテーマは水であり、その活性化方法の研究の結果から

★「流体の活性化装置『ネオガイア』」を開発、特許取得  
(平成23年8月アメリカへ特許出願・取得)

★流体に引き続き、あらゆる物質を活性化させることができる「物質の活性化装置『テラファイト』」を開発(平成22年7月、国際特許(PCT)出願中)。現在は、人が住む器(建築)から離れ、身体そのものに関心を寄せながら、『かごめかごめの真実』を解き明かすため、お寺、神社廻りが御勤めの感があり、兵庫県生野で穴掘り(掘削調査)までやっている。

脳波が瞬時にリラクセスしてa波状態になるゼロ磁場発生装置『Terahigh』を開発してから、ほどこなくして始まった【啓示】により動かされて行く中で、急激に多くの方々と出会うことになりました。そしてその方々とのご縁から兵庫県中央部に「人の顔」や「魚」【鶴と亀】「龍(玄武)」といった具合に、山を使って壮大なスケール

で「地上絵」が造形されていることを発見し、宗教も日本の歴史にも無知な私に、何と一邪馬台国への航路とその全貌を描かされたのです。さらにいつの世から歌い継がれてきたのか、童謡「かごめかごめ」の歌に秘められたメッセージを解き明かすことまでやらされてきました。

さて、皆さんはこの日本に古代ユダヤの二人の大王が祀られているとしたら信じられますか？ そのユダヤの大王のお墓を、もし女王卑弥呼が護っていたとしたら!? 今、まさに過去の歴史をくつがえす日本と世界の古代の謎が解き明かされようとしています。天の啓示から始まった実に不思議な物語です。

テラファイトについては量子水学説の高尾征治博士が原理と効果を証明されており、イオンバイザーについては脳波研究の志賀一雅博士も効果を認められた。

☆ ☆

ごく普通の少年時代を過ごし、ごく普通の結婚をし、ごく普通の

生活をしていた上森氏は、昭和64年に不思議な夢を見た。その夢は、20年余り経った今日も鮮明に覚えているという。覚えているというだけではなく、その夢を人に語った平成22年8月11日から、不思議な事が起こりはじめ、その不思議な出来事は現在も続いている。



平成22年8月11日という日は、上森氏が開発した「テラファイト（物質の活性化装置）」の効果を証明してもらったために、高尾征治先生（元九州大学工学博士）に会いに九州まで出掛けて行った日である。夢の内容は昭和天皇が崩御される2〜3日前に、上森氏の夢枕に

お立ちになり、「私はもうすぐあちらに帰ります。上森さん、後のことをよろしく頼みます」と託されたというものである。

昭和天皇はロケットの前に立たれ、にこやかに手を振られたというのだが、このような夢の話は、誰にも（家族にも友人にも）語ることは出来ず、心の中に封印していたが、忘れることもなかったと上森氏は言う。夢を見てから、22年の歳月が流れ、平成22年1月11日に56歳の誕生日を迎え7カ月後の8月11日に56歳7カ月となった上森氏に、ある方が5・6・7の数字を持つ人にお役目があると言われた。上森氏は、8月11日に56歳7カ月となったが、言われた意味はよく解らないし、無宗教で、神社や仏閣に知識のない自分には関係ないことだと思つたと言ふ。

それから、1年余りが経ち、上森氏がご縁をいただいた方は300名を超え、ご縁をいただいた方々は、上森氏の不思議な体験と上森氏に啓示のあった童謡「かごめかごめ」の歌の真実を解き明かすことが『世界平和と再生に繋がると思ふ、そのことを多くの方々に知ってもらおうと』かごめかご

めを研究する会」を作り、各地で「かごめかごめのつどい」を開催するようになった。

これらの経過は次の天皇への手紙に詳細に述べられています。

天皇陛下様への手紙

『天皇陛下様

私は、昭和天皇がお亡くなりになられる数日前に、天皇が夢にお出になり、「私はもうあちらに帰ります。後はよろしくお願いしますね」と言葉をかけられた上森三郎と申します。

夢を見た昭和64年から、23年の歳月は経ちましたが、今でも、その夢の情景は鮮やかに残っています。

でも、ただただ夢のこと……と思つていましたが、ここまでくれば、どうもその時の天皇陛下のお言葉はただの夢ではなかったようです。

私は、下記のことを天皇陛下にお願い申し上げます。

第一に、兵庫県朝来市生野町口銀谷の絶峯という山に眠る、天皇

陛下だけが手にすることができ  
 『人類的神宝』を一刻も早く取り出  
 し、天皇陛下の懐にお納めくださ  
 いませ。

第二に、人類的世界遺産である  
 『地上絵』の保護をお願いいたしま  
 す。

先ずは事実を申し上げます。

・兵庫県朝来市生野町口銀谷にあ  
 る絶峯という山を使って、5 kmほ  
 どの長さには、『鶴と亀』が造形され  
 ています。

・兵庫県多可郡多可町 千ヶ峰に  
 『魚』

・兵庫県朝来市生野町栃原 段ヶ  
 峰に『龍(玄武)』

・兵庫県丹波市山南町五ヶ野に  
 『人の顔(古代エジプトの女神ハト  
 ホル)』

・三重県津市 高峰に『生贅の鹿』

というように、地上絵が造形さ  
 れていることを発見させられまし  
 た。

これらの「地上絵」は、伊勢神宮  
 から兵庫県朝来市生野町の段ヶ峰  
 に伸びる一直線上にキッチリと並  
 び、それも旧約聖書に登場する「生

命の樹」と思われますものが、男  
 性と言いますか表と言いますか、  
 「第一の生命の樹」と、女性と言  
 いますか裏と言いますか、「第二の生  
 命の樹」の一对が浮かび上がり、そ  
 のポイントにピタリと位置してい  
 ます。

(別図、第一、第二、第三、第四の  
 生命の樹 を参照下さいませ。)

私達の脳裏にいつの世から歌い  
 継がれてきたのか、『かごめかご  
 め』という童謡がありますが、こ  
 の唄を千ヶ峰の山頂から、造形さ  
 れた「魚」を観ながら、伊勢の方角  
 を見て唄うと、ちょうど後ろの正  
 面にあたる場所は、兵庫県朝来  
 市生野町口銀谷の絶峯という山で、  
 そこには「鶴と亀」が大きく山で造  
 形されています。さらに、その後  
 方の段ヶ峰には「龍(玄武)」、前方  
 の山南町五ヶ野の山頂には「人の  
 顔(古代エジプトの女神ハトホル)』  
 という具合です。

『かごめかごめ』の唄をへブラ  
 イ語で解読すると、誰が守るの  
 か？ 誰が契約の箱に安置されてい  
 る神器を取り出すのか？ それを取  
 り除き、お守りと差し替えよ。そ  
 して、誰もいない荒地に水を引き、

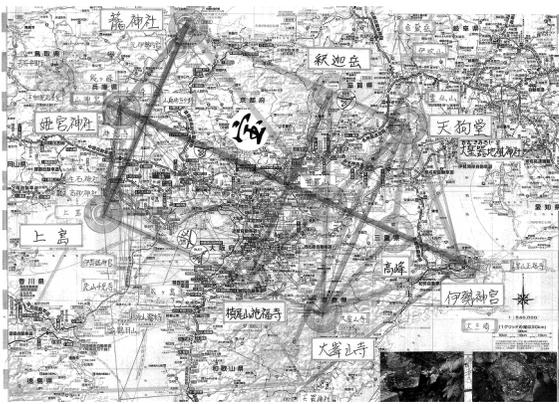
そこを聖地として支配せよ！と言  
 う意味があるようです。

私は今、導かれるように「鶴と  
 亀」が造形されている場所を調査  
 しています。

その場所は、上空から眺めると  
 「鶴」と「亀」が仲良く口づけをし  
 ているように見え、そこには、「三  
 つの岩」があります。

「三つの岩」の中心となる岩の頂

### 第一の生命の樹



上には「ライオン」、その下の岩に  
 は「亀」であり「魚」に見える造形  
 物があります。しかも、その岩は、  
 直角な平板の石を活用して造られ  
 ており、人工的に造られた物的な  
 証拠になると思われます。

私は今、手作業でこの場所に穴  
 を掘っていますが、石や土は容易  
 に取り除くことが出来、埋め戻し  
 をしたとしか考えられない全く締

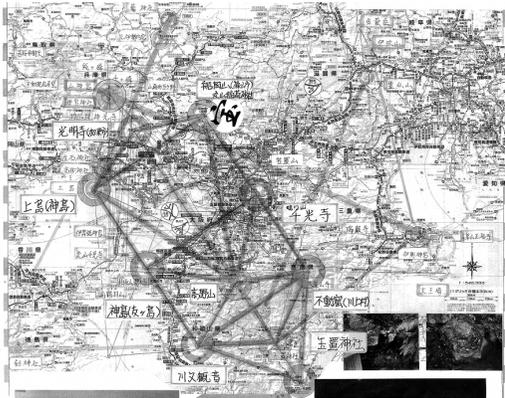
### 第二の生命の樹



りのない状態で、人工的に造られたものと思われまます。

実は、続いて「第三の生命の樹」と「第四の生命の樹」を描かされました。「第三の生命の樹」の王冠にあたるところは、播磨高野と呼ばれ、そこには光明寺というお寺があり、光明寺から高野山の方向に向かって「かごめかごめ」を唄うと、後ろの正面の場所は、「第一の生命の樹」や「第二の生命の樹」と全く同じ兵庫県朝来市生野町口銀

### 第三の生命の樹



谷の絶峰です。

生野の史実では、昔は「死野」と呼ばれていたそうですが、ある時期、天皇からの「生野」に変更するようになったと記されています。

死野： シノ： シノン： シオンとはヘブライ語で聖地ですが： 聖地と呼ばれていた時代が確かにあったのでしょうか。

### 第四の生命の樹



私は「第三の生命の樹」を、「弘法大師空海の生命の樹」と呼んでいます。

弘法大師空海が、嵯峨天皇から賜って開いた高野山は、「生命の樹」の身体で言えば中心である「おへそ」にあたる場所です。

「第四の生命の樹」は「桓武天皇が平安京に遷都した時の生命の樹」と私は思っていますが、「伊勢神宮」、「石上神宮」、「信貴山（空鉢護法堂）」、「再度山（大龍寺）」、「石乃宝殿（生石神社）」が、中心軸の一直線上に並びます。

この中心軸のちょうど真ん中あたりに「中宮寺」や「法隆寺」が位置するのも偶然でしょうか。

この中心軸と直角に交わり、その距離も中心、軸から全く同じ距離に「京都御所」と「高野山（金剛峯寺）」が対で位置しているのも偶然でしょうか。

実はこの4つの「生命の樹」は密接に関連しています。

そして早速にこの事実を陛下にご覧戴き、『隠されている神宝』が眠るその場所に、一般の人たちが出入り出来ないような方策を講じていたとき、一刻も早く取り出していただきたい思います。

この情報は、海外の人たちにも、確かな情報として流れていますので、後手に回れば大変な事態になることも予測されます。

天変地異も含めて、一刻を争う事態になってきました。

私を動かしている神は「急げ！時間が無い！」と最初から言っています。

最後にもうひとつ不思議な話をお聞かせください。

神戸に、人類史上に名を残すといわれる『奇蹟の天才ピアニスト』が現れています。その名を平原誠之（ひらはらまさゆき）と言います。彼のピアノを聴いたほとんどの人は、涙を流します。感動で涙を流さずにはおられないようです。その平原氏のコンサートが、2011年11月11日（金）に三重県名張市桔梗が丘のヴェルージュという、小さな会場ですが、とても素敵な会場で開催されます。実は、この会場でのコンサートが決まった後に、「第二の生命の樹（女性の生命の樹）」が完成しました。

もしかと思って、「第二の生命の樹（女性の生命の樹）」を見つめる

と、コンサートの会場は、縦軸と横軸がクロスした場所でした。そして、「第一の生命の樹(男性の生命の樹)」と「第二の生命の樹(女性の生命の樹)」の縦軸と横軸を重ね合わせると、ぴったりと重なりあい、男女が一つになった「合体した生命の樹」が完成しました。「第二の生命の樹(女性の生命の樹)」の子宮にあたる部分が、実は「第一の生命の樹(男性の生命の樹)」での御霊にあたります。

さらに驚いたことに、コンサートの会場は、「合体した生命の樹」の縦軸と横軸がクロスした場所、まさしく人間で言えば「心臓」にあたる場所でした。

平原氏が、2011年11月の11日(満月)に、この場所で魂を揺さぶるピアノを弾くことにより、『合体した生命の樹の鼓動』が始まるのでは：と私は思っています。彼が、その日に、その場所で、ピアノを弾くことにより、『新たな御霊がこの世に出現する』、正に『弥勒の世を迎える為の儀式』を、彼と私が託されているようです。これは神の儀式です。天皇陛下の命を受けた方のご臨席を私は密かに願

います。

平成23年10月 上森三郎  
(このコンサートは実施済みです)

☆ ☆

不思議な話であるが、上森氏の開発は量子水学説の高尾征治博士や脳波研究の志賀一雅博士も認める効果があるものだけにこれら啓示により発見した事柄も信頼に値するであろうと思われる。平原氏のピアノのCDも感動的であった。

当日の参加者は会員9名、非会員36名、合計45名でした。今回のカセットテープは2000円です。事務局(0797・22・6425)まで

(関西日本サイ科学会会長

河野 明夫)



## ＜サトルエネルギー学会主催 '12秋の大会(日本サイ科学会協賛)のお知らせ＞

**秋の大会テーマ** 2012 いよいよ始まった大転換時代！

～こうすれば輝ける未来はきっと日本からつくれる！～

(大会委員長 井筒 貴康 副委員長 阿久津 淳)

講演・実演者(敬称略) 池川 明 木内 鶴彦 飯島 秀行 白鳥 哲 光明 江本 勝

司会 石田 桃子、阿久津 淳 (フルーツ演奏) A K I

日時：平成24年10月21日(日)開場 9:45 開演 10:15 終演 18:40

会場：SYDホール JR「代々木駅」徒歩5分(東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2)

公式サイト URL：<http://www.subtle-eng.com/index.html>

【お申込み要領】 FAX 03-5730-6451 または E-mail [uketsuke@subtle-eng.com](mailto:uketsuke@subtle-eng.com)

サトルエネルギー学会 シンポ大会係 まで

FAXまたはE-mail記載項目：氏名・住所・TEL・日本サイ科学会会員・チケット枚数・合計金額  
料金 予約料金：サイ科学会会員・サトル会員価格同一 ￥5,000 (当日￥6,000)

【振込先】お申込みと同時に下記宛お振込み下さい。ご入金確認後チケットを送付します。

郵便振込先： 00170-1-196569 サトルエネルギー学会 (申込受け9/24より)

主催：お問合せ サトルエネルギー学会 03-5730-6450 E-mail [infomation@subtle-eng.com](mailto:infomation@subtle-eng.com)

していると判断している。神社の屋根の下に、白色雲状の変形ORB (又はプラズマ) と、金色円形状連結の変形ORBが現れている。写真12は、八王寺の自宅前の道路上で撮影された。2012年6月9日(土)、朝の5:40頃、小雨の降り始め、経験からは、特に朝方が良い(良いORBが撮れる)。金色の菱形の変形ORBの後に、半分隠されて、白色のORBが撮れている。誠に不思議な変形ORBであり、これらの解釈は未検討である。なお、今回新しく観測されたORB像は、写真10~12のみであり、他は、すでにM.Ledwith, K.Heinemannらによって(類似ORB像)報告されている(2007)。つまり、既発表の結果を支持する写真が得られている。

### 3. 検討と考察

#### 3-1) ORB像について

昼と夜は(+)イオンが多いが、太陽の昇り始めの早朝(夜明け)と日没(夕方)には、空気層の中に、(-)イオンが増加してくると言われている。また夜明けと夕方、つまり、明、暗の明るさの境目になると、従来の研究から判断して、零場(未知現象発生点)は不安定状態になり、カオス現象が発生しやすい状態になることが判明している(未知現象が発生する)。また、太陽からは宇宙線やガンマー線、地表面の花崗岩や玄武岩からもガンマー線が放出されており、これらも、イオン形成を促進させることになる。

雨が降り始めると、空気中のイオン等は励起されて自由電子が生まれ、電離した陰と陽の荷電粒子の集合体としてのプラズマ、並びにSPI-pairを核としたORBが形成される事に成る。これらは、全体としては、中和(陰+陽=0)状態になっている。SPI-pairとは、人間のバイオフィトン(オーラ、微細身素粒子)を介して放出・形成される陽電子と電子の組合せ(スピン零)をもとにし、これに陰陽の微細身素粒子(オーラ)が加算され、組み合わせられた(中和状)ものである。本報では、これがORBの中核になっていると仮定する。つまりORBの基本構成要素はサイ(気)であると考ええる。

なお、当然ながら、ORBとプラズマは混在している。別報によると、気功水の熱活性化エネルギーは1,38eVであり、これは赤外線領域の波動を意味しており、ORBもほぼ同一である。以上をもとに検討する。ORBは素粒子から構成されている。素粒子は粒子であると共に波動でもある。写真(写真1~4等)で見られるORBの「ぼけ」の状態は、素粒子の性質そのものであり、非局所的に空間に曖昧な状態でORB像が存在している事を示している。ORBはバイオフィトンの一部を含んでおり、これが原因となり、人の意識に関係する事になるのであろう。多くの人達のORBも、この様な状態で、ある特定場所により濃く、存在するのであろう(気場)。ORB球内の干渉縞模様は、構成要素の素粒子が波である事を示している。さらに素粒子には虚と実がある。これがORB球内の白点や黒点に関係しているのかも知れない。

フラッシュ光をORBやプラズマに照射すると、(1)反射光、(2)電子の軌道間移動に基づく発光、(3)プラズマや電子の合体に基づく発光、等が生起すると考えられる。デジカメのシャッター速度が1/1000秒なので(1),(2),(3)の光が、時間差を持ってCCDに届いて、2~3重のORB像を形成するのであろう。なお、ORB構成小球群のうち、光を吸収する場合は黒色、光を反射するのが白色となるのであろう。

#### 3-2) ORB像発見が意味するもの

顕微鏡の発明により、細胞が発見された(1965, R.Hook)と言われている。近代生物、生理学の母体誕生(細胞発見)である。同様に、デジカメの発明によりORB像が発見された。思いを巡らせば、両者の事情はほぼ同一であると思える。そこで、我々のORB像研究の努力が、新たな近代精神科学(新分野)樹立に発展する事を祈念したい(写真を4枚だけ掲載します。これ以外は、2012年10月開催予定の全国大会で報告する予定)。



写真4

に座っており、目にはみえないが、ホコリや呼吸としての息(湿度)が相当程度あり、これらがORB像出現に関係していたらしい。また、極めて賑やかな、色とりどりの「華やか」な雰囲気であったので、撮影者自身からのバイオフィトン(オーラ、微細身素粒子)発生(出現)があり、これも撮影条件に加算していたと考えられる。

写真5～6。撮影場所は、花火観覧席に隣接する野球場(グラウンド)の建物の前で、花火観覧席の入り口付近である。写真5には、ORB像が3重に重なって撮れている。写真6は、ORBがプラズマ状に変化する過程と思える写真である。

## 2-2) 福島瀧洞神社

2012年7月6日(金)、小雨模様、夕方の18:30頃、屋外、部落(住宅)の氏神様の前。

撮影者の検討、考察の結果として、ORBの主体は「サイ(気)」であると推定したので、また、過去の経験から、「気」は水との間で親和力がより強い、と考えたので、夕方の小雨模様の時間帯を撮影条件に選んだ。しかし、当然の事ながら水滴とORBとは区別して判断している。しかし、水滴に上載したORBを撮影していることもある。

写真7～10を見る。写真7には、上述の写真5と類似した3重像。写真7～9には、半欠け状、

さらには干渉縞状の円形の縞、黒色球状(光吸収)や白色球状(光反射)の斑点がランダムに混在して撮れている。これらは、全体として、模様が不鮮明である。ORBの内部構造が形成される途中のものとも思えるものもある。しかし、詳細は不明である。写真10は、福島自宅前の道路上で撮影されている。特徴的な事として、ORBが玄関の石階段にへばりついて、折れ曲がった状態で撮れている。



写真11



写真12

## 2-3) 東京八王子、福島瀧洞神社

写真11は、2012年6月19日(火)、時間は17:19、夕方の小雨の降り始め。小雨の降り始めは、イオン形成やプラズマ形成に直接関係



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行

電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

公式サイト <http://homepage3.nifty.com/PSIJ/> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

## オーブ (ORB) は参加を求めている

佐々木 茂美

### 1. はしがき

今世紀 (21世紀) の当初になると、写真撮影の面で、フィルム使用からデジタル (CCD) 使用への転換があり、小球状のオーブ (ORB) 像がデジタルカメラの撮影面上に (ノイズとして) 混入してきた。この事実は「こころ」の世界の可視化、大衆化の面から、記念すべき新時代への幕開け (創始点) になるだろうと推定している。だが問題もある。ORBには、再現性に欠ける点があり、また当初に報告されたORB像の約70%は、カメラの操作ミスや撮影操作上のミスであったらしい。しかし、その中には本物もあり、ORBは「意識や霊」に関係していると言う主張や意見もある。本報では、初歩的な検討として、ORBの多様性と撮影条件ならびに解釈について考察する。

### 2. 撮影、実験結果

低画素数 (200~400万画素数) のCCDを内蔵するデジタルカメラ。または近赤外線領域迄をも撮影出来るカメラを用い、フラッシュ撮影する事が、ORB像出現の必要条件になっている。例えば、画素数が少ないデジカメは、可視光線域を含めて赤外線領域までも撮影できると言われている。他方、「サイ (気)」は赤外線領域に存在している事が既に報告されている (後述)。本報では、NICON, PIX-2200

(220万画素数)、CASIO, EX-240 (400万画素数) の2種類のカメラを用いて撮影した。

#### 2-1) 福島花火大会

2012年7月28日 (土)、晴れ、日没後の夜の19:00~20:00、屋外の阿武隈川原敷での撮影。写真1~2を見る。大小様々な多量のORB像が撮影されている。しかし全体としては「ぼけ」の状態で撮れている。写真3を見る。点状の花火 (朱) の向こう側にORBがあるようにみえる。写真4には、ORBが2重3重に重なって写っている。

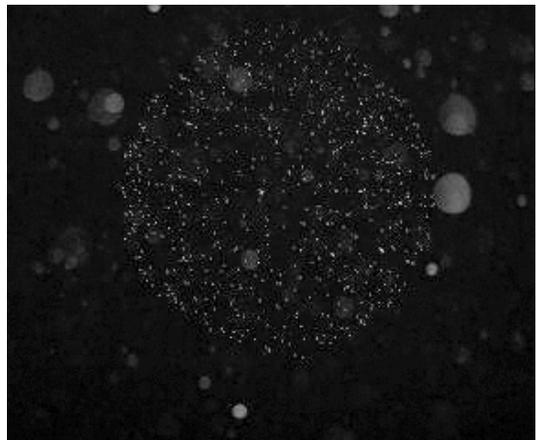


写真1

感想を述べる。当日の撮影条件として、多数の人達 (約300~500名) が観覧席 (河原敷)